



地域子育てネットワークだより

令和2年8月号

発行／兵庫県子育て応援ネット推進協議会事務局

650-8567 神戸市中央区下山手通 5-10-1 兵庫県企画県民部女性青少年局男女家庭課 電話:(078)341-7711 内線 2798

E-MAIL: danjokatei@pref.hyogo.lg.jp http://web.pref.hyogo.lg.jp/kk17/network-dayori.html

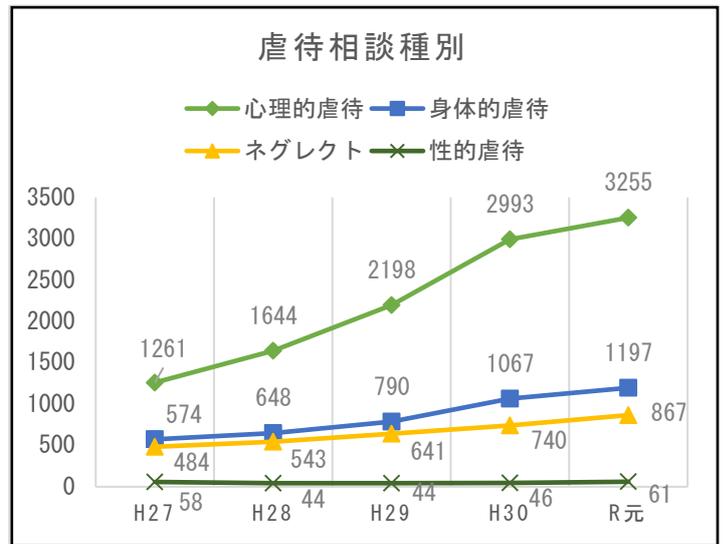
児童虐待相談件数が前年度より増加

令和元年度に県こども家庭センター（中央、西宮、川西、姫路、豊岡）が受け付けた児童虐待相談件数は 5,380 件で、前年度から 534 件増加しました。

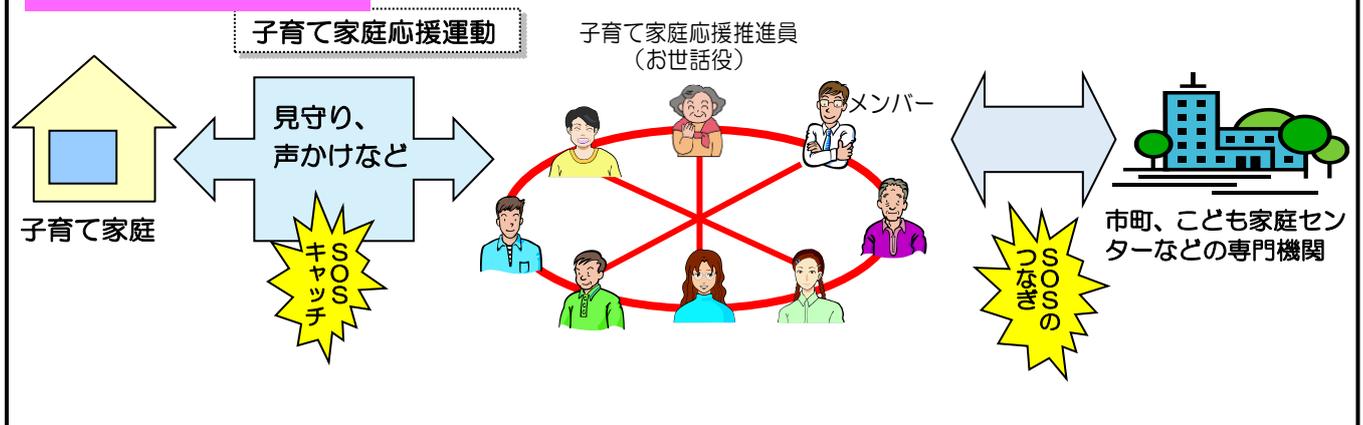
虐待相談の種類としては「**心理的虐待**」が最も多く**全体の 60%**、次いで「**身体的虐待**」が続きます。相談経路は警察等からの相談が 59.6%と最も多く、次いで近隣・知人からとなっています。

主な虐待者は全体の 48.6%が実母、43.2%が実父、合わせると全体の 91.8%にのぼり、また被害を受けているのは、小学生以下の子どもが 4,242 件と全体の 78.8%を占めています。

「**子育て応援ネット**」が取り組む登下校時の見守り、声かけ、SOS キャッチ活動など**地域ぐるみの子育て応援**がますます求められています。



子育て応援ネット事業



兵庫県では、**子育て応援ネット事業**として、兵庫県地域女性団体ネットワーク会議構成団体（17 団体）や、自治会、青少年関係団体、子ども会、PTA 等の**地域団体がネットワークを組み**、子育て家庭への見守り、声かけ、子育て相談、イベント、登下校時のパトロールなどを行う**子育て家庭応援運動を展開**するとともに、子育て家庭の親子が発する **SOS を子育て家庭応援推進員や活動に賛同するメンバーが受け止め**、市町やこども家庭センター、民生委員・児童委員、警察署等の**関係機関へ連絡**するなどを行っています。

子育て応援ネットの活動紹介

声かけ・見守り活動などで子育て家庭を応援する「子育て応援ネット」の各地の取り組みを紹介します。

姫路市連合婦人会は、姫路市の女性団体の代表としての活動はもとより、それぞれの地域において子育て活動にも取り組んでいます。

中寺校区ではデーワンまつり会場で親子を対象に**バルーンアート**の実施や、こども園を訪問し**絵本の読み聞かせ等**を行っています。

豊富校区では豊富公民館で**季節のイベント**や**お誕生日会**などを行い、幼稚園・保育所を訪問し**絵本の寄贈と読み聞かせ等**もしています。

広峰校区では幼稚園児・小学校低学年児童を対象に**ネイチャーパーク**、幼稚園年長組・小学6年生を対象に**お茶会**を実施しています。

水上校区では幼稚園年長組を対象に**抹茶教室等**を行っています。

今年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で例年通りの活動が難しい状況ですが、**子どもたちの笑顔を糧に感染予防対策を徹底した上で、今できることを考えながら活動**しています。



姫路市連合婦人会
会長 岩田 稔恵

まちの子育てひろばの活動紹介

『まちの子育てひろば えんがわ文庫』
代表 建石 恵美子

えんがわ文庫は2000年に開設し、**今年20周年を迎えました**。少人数の参加者とスタッフから始まった小さな文庫でしたが、口コミや子ども達が継続して楽しんで参加できるようなスタッフの工夫で前向きに変わり続けることができました。例えば、出席カードや名札作り、親も子もおはなし会での読み手として参加、運営準備にも『**できることをできる時にできる人が**』をモットーにして、多くの人の協力があって20周年を迎えることができました。子ども達はいつのころか、家で作ったもの(折り紙、手作り絵本など)を持ってくるようになりました。得意な分野がより伸びるようにと願って、大人たちは積極的に『**よその子も言葉でほめる**』雰囲気になりました。

今年、3ヶ月遅れで6月に催した『**文庫まつり**』では、11名の子どもが手作り絵本の発表をしました。大学4回生になった文庫卒業生2名も参加してくれ、**20年の重みと温かさに包まれた会**になりました。ご縁のある皆様に感謝です。



1歳から参加している永井瑠璃さんの手作り紙芝居の読み聞かせ

連載第 147 回

ビデオ通話で遠隔地にいる孫の顔が

県立こども病院名誉院長 中村 肇



新型コロナ感染防止のために、学校は休校となり、外出自粛が求められ、**新型コロナ後の新しいライフスタイル**が話題になっています。

これまで若者中心に利用されていた**ビデオ通話**を、祖父母世代も使い始め、**遠隔地の孫の顔を見ながら会話を楽しめる**ようになりました。学校が休みになったこともあり、**以前よりも孫との会話の機会が増えた**と喜んでおられる方もおられるでしょう。

ビデオ通話で積み重ねてきた孫のイメージから、次回出会ったときに抱きしめた感触を想像するだけでワクワクします。その日が待ち遠しくなります。

これまで、**小・中学生はスマホを控えるようにと指導**していましたが、このようにスマホを通じてしか、お友達と連絡が取れない生活が続くと、**子どもたちの心のケアにも役立つ**ことでしょう。

とはいえ、**スマホだけのお友達とのコミュニケーションの物足りなさ**を、身をもって感じとってくれたにちがひありません。